

平成26年度ジャンクラシック&一士二官

ベンチプレス選手権大会

平成 27 年 2 月 21-22 日

つくば市市民ホールやたべ

写真提供：物江 毅

第一日目報告：編集部、吉田寿子

ジャンクラシックベンチ&一士二官大会が、2月21、22日、つくば市市民ホールやたべで開催された。主管の茨城県パワーリフティング協会の皆様には、準備から大会運営まで大変お世話になり、心から感謝を申し上げたい。

第一日目は、一士二官（消防士、警察官、自衛官）の部、女子、男子53-66kg級が行われた。

一士二官

こちらの部門では、日本記録に挑戦できない、ということで、日本記録を狙う選手や、同日に一般の部でも出場する59kg級、66kg級の選手は、一日に二回の試合をこなすことになり、いつもの大会とは異なる作戦の立て方が必要であったようだ。

女子の参加は一名で、消防士を務める渡辺選手が47kg級、35kgで優勝した。

男子の59kg級は、東京の消防士、井上卓選手が130kgをマークして優勝、二位は、取手消防署の佐藤選手で90kg、三位には、札幌方面北警察署の松藤選手が85kgで入った。

男子66kg級では、久米亮平選手が152.5kgで優勝、クラシック部門でも、157.5kgを上げて2位に入った。このクラス二位は、沼津市消防本部の前田選手が、久米選手を逆転で抜くべく155kgに挑んだが惜しくも失敗、2.5kg差の150kgをマークした。取手消防署の蛭原選手と横浜市港北消防署の水野選手が140kgの同記録であったが、体重差で蛭原選手3位、水野選手4位となった。この二人は、クラシック部門にも出場し、蛭原選手を5kg記録を伸ばして、145kgで9位、水野選手は137.5kgで12位となった。



日本最高齢記録を樹立した奥村選手

男子74kg級では、酒井淳也選手と安江三千夫選手が激しい優勝争いをし、二人とも一本しか取れなかったが、記録160kgで体重差、酒井選手が優勝、安江選手が二位となった。酒井選手は、クラシック部門でも一般の部で2位（記録167.5kg）、M1の部で優勝を果たした。このクラス三位には、東京の警視庁田無警察署の谷田真選手が、三本成功の142.5kgをマークして入った。

男子83kg級では、航空自衛隊防府南基地の坂本勝典選手が、180kgの好記録をマークして優勝、クラシックM1の部でも同記録を上げて優勝した。二位は、稲敷広域消防署の本島大稔選手が162.5kgで、三位は茨木市消防本部の島岡大輔選手が、132.5kgであった。

男子93kg級では、横浜市磯子消防署の齋田誠選手が、155kgで優勝、クラシック部門M2では、150kgで三位となった。二位には、稲敷広域消防署所属の棹台選手が110kgで入った。

男子105kg級では、仙台市宮城野消防署の小野和久選手が、180kgをマークして優勝、クラシック部門M2では、170kgで二位となった。

女子の部

47kg級では、84歳になる奥村正子選手が、三試技とも日本記録をマーク、記録42.5kgでM4部門で優勝した。前向きな姿勢が若さを保つ秘訣、と、ただただ、感心しながら、試合を観戦させていただいた。

一般の部では、湘南ベンチプレスーズの小林ナオコ選手が、日本記録89kgを上げて優勝（M1部門でも優勝）、二位は、パワーハルクジムの大平亜希選手が57.5kg（M1部門でも二位）、三位はK's GYM横浜の植草千秋選手で、記録は52.5kgであった。M1の部三位には、エアーズチームHORIの村中めぐみ選手が40kgをマーク手入った。

52kg級では、サブジュニアの部で常総学院高校の澤山あおい選手が55kg日本記録達成、M4の部では、古川良子選手（K's GYM横浜）が50kgの日本記録に成功した。一般の部では、健宝の湯所所属の増山朱美選手が、日本記録の83.5kgには失敗したものの80kgの好記録で優勝、M2部門の優勝も獲得した。二位には、ノーリミッツの松村選手が70kgで三位には、K's GYM横浜の渡部優香子選手が45kgで入った。M1部門では、ヴィテンののいちの宮本智子選手が75kgで優勝、二位は、柳沢選手（TXP）で記録は47.5kgであった。M2部門一位は増山選手、2位にはノーリミッツの原田選手が55kgで同記録体重差で館林選手（Body Art Design）が3位となった。M3部門では、五泉フィットネスクラブの渡辺敬子選手が、惜しくも日本記録60.5kgに失敗、記録は55kgで優勝した。



女子47kg級、一般部門。左から二位大平選手、優勝小林選手、三位植草選手。優勝の小林選手は、女子のベストリフター賞を獲得した

57kg級では、K'SGYM横浜の津金典子選手が75kgで優勝（M1でも優勝）、二位には、ささみストリークの五十川琴乃選手が、65kgをマークして入った。三位は岡山大学陵門会の長江由美子選手（M1では2位）で、記録は60kgであった。M2部門では長野県のサンプレイの石田みどり選手が、72.5kgで優勝、二位は、チーム鉄腕の森崎祐里枝選手で45kgをマークした。

サブジュニアの常総学院の来栖選手は惜しくも42.5kgが押し切れず、失格となってしまった。

63kg級では、ジュニア部門で東洋大学の石橋あかね選手が、80kgの日本記録で優勝、二位には、茨城県の澤邊選手が50kgで入った。一般の部では、三重県の竹内あい選手が75kgで優勝、二位は、K'SGYM横浜の井原選手で70kg。（M2部門では優勝）。M2優勝の井原選手に続いて、二位は、ちからこぶの中根選手で60kg、三位はセントラル虎の穴の安藤選手が57.5kg、四位はFIGHT CLUBの高垣選手で記録は、50kgであった。M3部門では、日本記録の70kgに挑み、惜しくも失敗した、五泉フィットネスクラブの星田千鶴子選手が65kgで優勝した。

72kg級では、サブジュニア、常総学院の工藤みちる選手が63kgの日
本記録を樹立して優勝。一般の部では、K'SGYM横浜の溝口久美選手が90 **女子57kg級チャンピオン、津金選手**
kgの好記録で優勝、二位には
BIG GUNの櫻井美幸選手が65
kgで入った。（M1部門では優
勝）三位は大阪のK'SGYM
所属の東前めぐみ選手で、記録
は60kg、四位はパワーハウ
スつくば所属の高梨美里選手が
記録55kgであった。

84kg級では、一般の部で、
大沼陽子（パワエリジム）が
100kgをマークして優勝。

84kg以上級では、高知県、
有光自動車所属の、小松麻実選
手が、77.5kgで一般の部とM
1の部で優勝した。



さあ、胸を張っていくぞ！仲コーチと、試合後は役員で活躍森崎選手

男子の部

男子53kg級では、サブジュニア部門で、
パワーハウスつくばの高野晃輔選手が77.5kg
で優勝、二位は、BIG GUNSの橋本選手で記
録は、70kg。三位には橋本接骨院の岩瀬選
手が60kgを上げて入った。

また、ジュニア部門では、K'SGYM横浜
の関澤選手が80kgで優勝、二位は、橋本接
骨院のの関選手で、記録は、67.5kgであった。

男子59kg級では、サブジュニア部門で
小美玉P.L.Cの羽成選手が一本目、二本目を
失敗、三回目にやっと80kgをマークして優
勝、パワーハウスつくばの河地選手が65kg
で二位に入った。

ジュニア部門では、F.T.G.Y.Mの鈴木康之

女子72kg級表彰、左から二位櫻井選手、優勝溝口選手、三位東前選手、四位高梨選手



選手が105 kgをマークして優勝、二位は、昭和S Cの鈴木悠斗選手で、95 kg、三位は、常総学院の原科選手で記録は90 kgであった。

一般の部では、K ' S G Y Mの東坂康司選手が自身の日本記録を破るべく、166 kgに挑んだが、惜しくも失敗、記録は160 kgで優勝した。二位には湘南ベンチプレスラーズの高田勇選手が150.5 kgで入った。高田選手の記録は、M2部門の一位の記録で、日本新記録でもある。三位は、消防士の井上選手で147.5 kg、四位は横浜ワンダースリーの工藤選手で135 kg、五位はパークレイズ証

券所属の三浦選手で133 kg（M2の日本記録）、六位は、栃木県の石川選手で、記録は、122.5 kgであった。

M1部門では、埼玉県の吉田選手が130 kgで優勝、二位はBody Art Designの岡本選手で記録は120 kg、三位は、千葉県吉野選手で117.5 kgをマークした。

M2部門では、優勝高田選手、二位三浦選手に続き、三位には、横浜市役所W T Cの長澤選手が112.5 kgで入った。

M3部門では香川県の白川猛士選手が130 kgで優勝、二位と三位は、ともに記録95 kgで、体重差で神奈川県佐野選手が、東京の川上選手を破って上位となった。

M4部門では、世界でもアジアでも活躍している、大瀧順巳選手と川中章義選手g 激しい戦いを繰り広げ、ともに90 kgをマーク体重差で大瀧選手優勝、川中選手2位となった。三位は橋本接骨院の関選手で記録は82.5 kgであった。

66 kg級では、BIG GUNSの中野竜輔選手が85 kgで優勝、二位は常総学院の岩瀬司選手で80 kg、三位も同じく常総学院所属の岩瀬選手で、記録は70 kgであった。

一般の部では、札幌パワー協会の齋藤敬太選手が172.5 kgで優勝、二位は、消防の久米選手、三位も同じく消防の前田選手が入った。四位には、栃木県の五月女選手が前田選手と同記録の152.5 kgをマーク、5位は、パワーフィットネスの伊東選手で150 kg、6位は同記録体重差でG B T Tの古川琢真選手（ジュニア部門優勝）が入った。一般の部12位の消防の水野選手（記録は137.5 kg）はジュニア部門二位、K ' S G Y M横浜の細谷選手がジュニア部門で三位となり、記録は、130 kgであった。

M1部門では、パワーハウス山口の亀谷充男選手が記録142.5 kgで優勝（一般の部では11位）2.5 kg差の140 kgをマークしたHERCULESの深河選手が二位に入った。三位は、岐阜県PEACE GYMの久野選手が入り、記録は、127.5 kgであった。

M2部門では、沖縄の山城旭選手が155 kgで優勝、湘南ベンチプレスラー所属の外山尚人選手が142.5 kg二位、十勝パワーリフティング協会の谷口孝仁選手が三位であった。

M3部門では、世界タイトルを持つ京都府の佐藤恵二選手が自身の日本記録を破るべく、138.5 kgに挑んだが惜しくも失敗、記録132.5 kgで優勝した。二位には烈剛河地の山本選手が115 kg、三位には湘南ベンチプレスラー図の小笠原選手が記録90 kgで入った。



集中！言い聞かせて試技に入る選手。

M4部門では、K'S GYM横浜の佃忠和選手が105 kgで優勝、五泉フィットネスクラブの皆川選手が97.5 kgで二位となった。三位は、越谷市民プールトレーニングジムの小山選手で、記録は、82.5 kgであった。



写真上；

女子57kg級、三位、長江選手

写真中；

男子最高齢、80歳の藤田選手

写真下；

セッション役員のプレゼンテーション



第二日目報告：IPF 国際審判 JPA 監事

Team ponze 代表、物江 毅

年に一度ノーギア BP の王者を決めるジャパンクラシック BP 選手権大会、昨年 12 月にメルボルンで開催されたアジア・オセアニア共催 BP & PL 大会の大成功も影響してか、茨城県つくば市「市民ホールやたべ」には、300 名に及ぼうかというベンチプレッサーが集結した。主管協会茨城の寺門理事長、瀬尾事務局長をはじめとする役員の皆さんは、素晴らしい舞台をセッティングしてくださり、1,000 名の観客動員数を誇る会場で試合は始まった。

初日は、共催大会の全日本消防士・警察官・自衛官オープン BP 選手権大会で幕を開け、女子全階級、男子 59kg 級、66kg 級が行われた。

女子軽量級の絶対王者小林ナオコ選手、アジア&オセアニア王者の 59kg 級東坂選手、66kg 級斎藤敬太選手が断トツの強さが印象的であった。

第 5 セッション 74kg 級

同級アジア&オセアニア王者鈴木祐輔選手が登場、圧倒強さで優勝するであろうが、記録は 200kg を超えるのか、東坂選手、福島勇輝選手、武田裕介選手らとのベストリフター争いはどうかという観点で試技を見た。

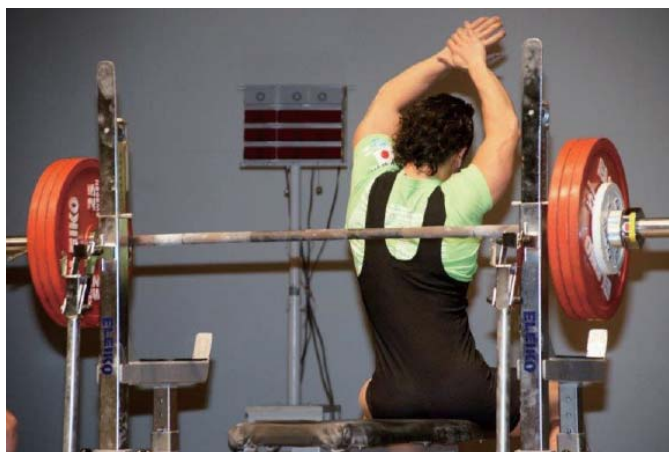
第一試技 185kg を軽く決めほぼ優勝確定後、第二試技 192.5kg も順調に成功、注目の第三試技は 195kg を申請後、197.5kg に訂正して挑んだ。200kg の大台よりも、三試技成功を選択したようである。ややナロー気味なグリップ、殆どブリッジしない欧米の選手に近いフォーム、70.6kg の体重で、200kg 挙げるといえるのは、本当に素晴らしいことではあるが、バーベルはプレス途中で止まり、試技は失敗に終わった。鈴木選手は今大会男子ベストリフターを獲得した。(ちなみにベストリフター 2 位は上記のつわもの達を抑えて三浦浩さんであった。何という素晴らしい事だろう)

大会翌日、児玉大紀選手が来年の本大会への参戦を自身のブログ・Face book で表明していた。実現すれば、鈴木選手との夢の対決という期待で、今から来年の高知大会が楽しみである。59kg 級に野田俊彦選手の参戦も期待したい。こちらも実現すれば東坂選手との夢の対決となる。

2 位には大会常連で、前日の一士・二官大会同級優勝の酒井淳也選手が、連戦にもかかわらず前日を上回る 167.5kg で入り、マスターズ 1(以下 M1 と略す)では優勝、3 位は第一試技で 160kg に成功した守山哲郎選手 (M1 で 2 位)であった。4 位以下 11 位まで 150kg を超えたなかなかのハイレベルなクラスであった。

M1 の 3 位は川畑勝則選手で 155kg、M2 優勝は井出光弘選手 152.5kg、2 位 150kg で平栗邦光選手、3 位同記録体重差で仲戸川薫選手。M3 は優勝渡辺進選手 140kg、2 位下山洋二選手 122.5kg、3 位は 80kg で高橋正巳選手という結果であった。

特筆すべきは最年長である M4 に出場したベテラン選手各位の頑張りで、優勝した小島広之選手の 132.5kg も素晴らしい記録であるが、なんと 7 位までが 100kg を超えた。2 位横山建男選手 112.5kg、3 位諸星孝夫選手 110kg、



男子ベストリフターは、鈴木選手 (75 kg 級)

4 位岩崎実選手 107.5kg、5 位三木宣彦選手 102.5kg、6 位磯部清一選手 100kg という結果であった。7 位は同じく 100kg 体重差で今大会男子最年長 80 歳、国際大会常連の藤田俊夫選手であった。藤田さんの地元 NHK 和歌山から取材が入り、2/25 の 23:20 から NHK の全国放送で藤田さんの快挙を紹介していた。（とても好意的に B P 及び藤田さんを紹介していた）

一方、若手のサブ JR は岩田宏希選手が 100kg で優勝、2 位には 95kg で石川裕士選手

JR 優勝本堂正達選手 155kg、2 位玉井幹大選手 120kg という結果であった。

第 6 セッション 83kg 級

フルギア・ノーギア両方の日本記録保持者である福島勇輝選手が登場、前年の愛知大会 93 k g 級優勝の鈴木優選手とのガチンコ対決が予想された。

第一試技鈴木選手 192.5kg に軽々成功、一方福島選手は 195kg からスタートであったが、グリップが外れていたのか主審のリブレイスが入り、仕切り直し後同重量を押し上げたが、ややスムーズさを欠き、失敗判定。第二試技、今度は落ち着いて同重量に成功した。

鈴木選手は第二、三試技で 200kg に挑むが失敗、第三試技に 202.5kg を申請し最終試技者となった福島選手は、鈴木さんの失敗で優勝確定後、鈴木祐輔さんのフォーミュラーを上回るべく、212.5kg に重量変更し挑んだが、失敗であった。

福島・鈴木の二強の争いと思われたこのクラスに昨年 3 位であった信田泰宏選手が 185-192.5 に成功後、第三試技で暫定 1 位を狙い 197.5kg に果敢に挑んだ。アジア&オセアニア大会で優勝、ウエストトーキョー PL 大会でも自己記録を更新しこの 1 年間で 12.5kg 記録を伸ばし自信をつけた信田選手のチャレンジは失敗にであったが、次回 200kg 超えで福島さんに挑むという新たな目標が出来たようだ。頑張れ！信田選手！！

このクラス 4 位は、こちらも進境著しい長谷川直輝選手が 183kg で入った (JR 優勝)。
ただ、全日本 BP 大会のレポートでも触れたが、長谷川選手の所属する K's GYM 横浜の一部の男子選手のシングレットは、かなり緩めで、コスチュームチェックでは着用していないので通るかも知れないが、試技に入る前 T/C 及び試技中に審判員・陪審員からクレームが付く可能性がある。JPA 監事として、是非とも改善をお願いしたい。
国際大会に同様なシングレットで出場するとかなりの確率で着替えを要求されると思われる。

5 位はパラリンピアンの大倉選手で 177.5kg、どうも体調が悪かったようだ。



6位は昨年同様 175kg で人気者松永浩二選手、このレポートを書くに当たって松永君から各選手の情報をいただき、とても有難かった。ただ、第一試技でコージスピン・シャチホコ BP などのパフォーマンスをしていたが、強豪ぞろいのこのクラスでもっと上位を目指すのなら、パフォーマンスは封印し、真摯な試技により観客に自分をアピールするべきだと私は忠告する。

M1 優勝は断トツで坂本勝典選手 180kg、2 位新屋敷弘明選手 155kg、3 位川上歩選手 145kg、M2 優勝は上月敦雄選手 160kg、2 位は高橋長治選手 145 k g、3 位に山本浩由選手が 140kg、M3 は久しぶりの全国大会出場の猪須純一選手が 165kg の好記録で入った。

サブ JR は、地元の佐藤哲裕選手が 102.5kg、2 位も地元の橋本直樹選手 85kg という結果であった。

第7セッション 93kg 級

このクラスも松永浩二選手から情報をいただいた。

一般と M 1 にダブルエントリー本並伸康選手が第二試技で 200.5kg の M 1 に見事成功、両クラスの優勝者となった。本並さんは第三試技で 202.5kg に挑んだが、こちらは途中で止まり失敗であった。2 位には愛知の実力者・高取征爾選手が 195kg で入り、3 位は辻村明徳選手が 175kg で入った。

M 1 の 2 位は、常連・人気者の井上正雄選手で 170-177.5-182.5 と三試技とも成功、一時の絶不調から脱した模様である。M1 の 3 位は 170kg で松沼光紀選手であった。

M2 は土屋仁選手が 157.5kg で優勝、2 位は 155kg で佐野修選手、3 位は一士・二官とダブルエントリーで健闘した斎田誠選手 150kg という結果であった。

M3 は杉崎幹男選手が 125kg で優勝、2 位に 90kg で花田隆選手、JR は五十嵐大輝選手が 140kg で優勝した。

一般の部で優勝争いに絡むと思われた東京の渡部隆俊選手、神奈川の渡邊勝也選手は共に 185kg で試技成功とならず、残念ながら失格となった。来年の捲土重来に期待したい。

第8セッション 105kg・120kg・+120kg 級

105kg 級

TXP からオーナーの阿久津貴史選手、ヘッドコーチの武田裕介選手、長身の高山和澄選手、PL 主体でトレーニングしている首代敬次郎選手の 4 名が出場。

ディフェンディングチャンプの武田選手は 210kg から入り第二試技 215kg、第三試技 217.5kg の三試技とも成



表彰式、みんな笑顔。93 kg 級

功、安定感は相変わらずである。ただ、若干ではあるがスタート時の肘の延伸が甘く感じられる。国際大会で PL の BP 単独チャンプを獲得するために、是非とも改良していただきたい。

一般と M2 にダブルエントリーした埼玉の強豪・湯浅正信選手は、第一試技 200kg に軽く成功、第二試技は M2 日本記録となる 208kg にも成功、第三試技では M1 の日本記録更新を狙い 213kg に挑んだが途中でバーが止り失敗、2 位となった (当然 M2 では優勝)。3 位は安定した BP を見せた阿久津選手で 187.5kg。ただ、まだプレスに余裕があり、本気で挑めば 200kg 近い重量でも挙上出来るのではないかという印象を持った。オープンの世界 PL 大会で、TL950kg 程度を目指すのであれば、是非ともノーギア BP の底上げとフルギア BP のテクニックを磨き、300kg 以上の挙上に成功していただきたい。可能性は充分にあるという印象を持った。

M1 の部優勝は中村敏雄選手で 172.5kg、2 位渡邊薫選手 167.5kg、3 位水引順一選手 157.5kg、M2 の部 2 位小野和久選手 170kg、M3 の部優勝、高橋勉選手 155kg、2 位高橋明雄選手 110kg、サブ JR の部地元つくばの優勝中根健太選手 110kg、JR の部では、嶋貫俵太選手が日本新の 188kg で優勝した。

120kg 級

ノーギア・フルギアとも強い後藤衆治選手が 210kg で優勝 (M1 も優勝)、2 位は本年 57 歳になるノーギア PL 界の雄・渡辺明彦選手が 200 - 207.5 に成功後、第三試技で 212.5kg に挑んだが惜しくも失敗、それでも大健闘であった。渡辺さんは寡黙で男らしく、いつも結果を残す、本当に素晴らしいアスリートである。3 位は 205kg で高山洋之選手であった。

M1 の 2 位は井上健選手で 170kg、3 位は 165kg で西古裕志選手であった。

+120kg 級

埼玉の大家・永田聡選手がどこまで上げるか密かに注目していたクラスであるが、永田さん第一試技は 200kg と控えめな重量を申請、おもちゃのように軽く決め、第二試技 217.5kg に挑んだが、試技が安定せず失敗判定、第三試技で同重量を落ち着いて押上げ 2 位に 32.5kg 差で優勝。永田さんは上述の湯浅さんが、ジムで練習中に自分と同じ位の重量を挙げる永田さんを観て、試合出場を促したのが公式戦出場のきっかけとなったと聞いている。まだ荒削りだが、その巨体から繰り出されるパワーは、無限の可能性を秘めている。是非とも日本人初のノーギア 250kg 超えを目指していただきたい。

2 位は TXP の海老田旭選手で 185kg の自己新記録に成功。M2 の優勝はベテランの氏家一郎選手 160kg で、世界マスター BP 大会で欧米勢から喝采を浴びたロングストローク BP は復活してきたという印象であった。

こうして 3 大名近い選手が集った今大会は終了した。

団体戦は男子優勝 TXP 女子優勝 K's GYM 横浜といずれも新興ジムが栄冠に輝いた。何という素晴らしい事であろう。

最初にも書いたが、全国から 300 名近い選手が集った今大会、地元茨城協会の役員の方々、協力した関東ブロックの役員に方々の頑張りは本当に素晴らしかった。

JPA はパワーリフティング及びベンチプレスがよりメジャーなスポーツとして、一般社会に認識されるように、来年度から広報活動に注力する。選手及び関係各位のご協力をお願いしたい！！



いつもきちんと結果を残す、寡黙な渡辺選手 (120kg 級、2 位)